

令和元年(平成31年) 大館市の10大ニュース

順位	項目	説明
1	大館市観光交流施設「秋田犬の里」オープン	大館市観光交流施設「秋田犬の里」が完成し、5月8日にグランドオープンした。秋田犬ふれあい処の機能を引き継いだ秋田犬展示室や秋田犬ミュージアム、お土産コーナー等は多くの来場者に利用されており、4月17日のプレオープンからの来場者は12月23日現在で27万人を超えている。
2	令和初となる秋田県種苗交換会が大館市で開催	「集え大館 令和に紡ぐ 秋田の農業」のキャッチフレーズのもと、10月30日から7日間の日程で「第142回秋田県種苗交換会」が18年ぶりに本市で開催された。優良農産物の展示に加え、最新技術を搭載した農業用機械の展示や実演が行われたほか、多彩な協賛行事に農商工が連携し、来場者は前回の本市での開催時を上回る81万1千人にのぼり、地域経済の発展に大きく寄与するイベントとなった。
3	共生社会ホストタウンに登録	10月11日、東京2020パラリンピックを契機とし、障害者に優しいまちづくりに取り組む「共生社会ホストタウン」に、本市が県内で初めて登録された。本市の登録に当たっては、タイ王国のポッチャと陸上競技の事前合宿に合わせたイベント開催や、県内初となる手話言語条例の施行、施設のバリアフリー化が評価された。
4	「大館市手話言語の普及及び障害者のコミュニケーション手段の利用の促進に関する条例」を制定	障害のある人もない人も互いを尊重し支え合い、誰もが住みやすい地域社会を目指す取り組みの一つとして、手話を言語として認め、障害のある人のコミュニケーション手段の利用を促進する条例を4月に施行。 県内市町村で初の制定。
5	産前・産後を支援する新たな事業を開始	子育て世代包括支援センター「さんまある」の利用者の声から、新たに、自宅を訪問して悩みを傾聴する「産前・産後ママサポート事業」（県内初）と家事支援を行う「養育支援訪問事業」の2つの事業を開始。 妊娠から出産、子育てまでの切れ目のない支援がさらに充実した。
6	木育推進に向け「ウッドスタート宣言」	9月21日に本市と東京おもちゃ美術館が協力して木育推進事業を進めていくことを誓う「ウッドスタート宣言」を行った。本市の豊かな自然や身近にある木と触れ合うことにより、暮らしに木を取り入れ、木の持つ可能性を最大限に引き出し、子育て・子育てに生かす取り組みを推進することとしている。今年度は女性センターへの「木育ひろば」の設置を行った。
7	シニアいきいきポイント事業スタート	高齢者の社会参加及び地域貢献を奨励し、介護施設や保育施設で行うボランティア活動を通じて高齢者自らの介護予防を促進することを目的としてスタート。対象者は65歳以上の市民で、ボランティア活動により、貯めたポイントに応じて地域限定商品券と交換できる。 介護施設や保育施設など60事業者が登録、すでに67人の高齢者が活動している。
8	大館市国土強靱化地域計画を策定	事前に防災及び減災に係る施策を進め、大規模自然災害が発生しても人命を守るため、本年3月、大館市国土強靱化地域計画を策定した。策定にあたっては、五つの基本目標及び基本目標から具体化した七つの事前に備えるべき目標及び27の「リスクシナリオ（起きてはならない最悪の事態）」を設定。現在実施している施策の脆弱性を分析・評価し、その結果として、今後強靱化を進めるために必要となる対応策を定めた。
9	大館市都市再興基本計画を策定	まちを結ぶ「地域公共交通網形成計画」、市の将来像を描く「都市計画マスタープラン」、そのまちづくりを実現するための「立地適正化計画」の3つの計画をとりまとめた「大館市都市再興基本計画」を策定。コンパクトプラスネットワークの着実な推進により、人口減少下においても暮らしやすい持続可能なまちづくりを目指す。
10	教育長・校長プラットフォームin大館の開催	11月8日、9日の2日間、「教育・学びの未来を創造する教育長・校長プラットフォームin大館」が開催された。これは文科省若手職員有志が、教育長・校長や国・地方の教育関係者、産業界、学術界の方々と共に、より良い教育の場を創出したいとの思いから立ち上げたもの。ふるさとキャリア教育をはじめとした本市の先進的な取り組みに着目していただいたことで、初めての地方開催となった。県内外から延べ168名の参加があり、本市の取り組みを広く発信できたとともに、改めて高い評価をいただいた。